

登録コード:MH328400 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目	必修
科目名	臨床実習 【20M～24M】 Clinical Practice			
担当教員	小宅 一彰			
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	理学療法学専攻 / 4学年 前期(集中) 集中・不定期			
単位数、講義室	6 単位		遠隔授業科目	
信大コンピテンシー	該当			
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		授業の達成目標	
	MH20カリ・保健			
	生命を尊び、人間についての幅広い知識を身に付け、対象を全人的に理解して、人々の健康を支援することができる。		患者および指導の先生に対する適切な接遇を身に付ける。	
	保健・医療・福祉の現場において、専門職者として自己の責任を自覚し、チームの一員として協働活動に参加できる。		臨床基礎実習で習得した評価を基盤に適切な介入計画を立案できるようになる。	
	MH25カリ・保健・理学、MH25カリ・保健・作業、MH23カリ・保健・理学、MH23カリ・保健・作業			
	基礎的・専門的な知識と技能 保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。		理学療法士に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を習得し、臨床実習のさまざまな状況で活用できる。	
	科学的探求力 変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。		変化し続ける社会で生じる医療・介護・福祉の課題に対して、理学療法の視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。	
	問題解決力 保健・医療・福祉の場で生じる多様な情報を、科学的・多角的に収集・評価・分析し、最新情報と科学的根拠に基づいて判断を行うとともに関係者に伝えることができる。		理学療法の臨床現場で生じる多様な情報を科学的・多角的に収集・評価・分析し、最新情報と科学的根拠に基づいて判断を行うとともに患者・家族・関連職種へ伝えることができる。	
	対人関係形成・協働力 保健・医療・福祉の現場における対象者やその家族、チーム関係者とコミュニケーションをとりながら適切な関係を形成し、保健・医療専門職者として協働的に役割を担うことができる。		理学療法の臨床現場における対象者やその家族、チーム関係者とコミュニケーションを取りながら適切な関係を形成し、保健・医療専門職者として協働的に役割を担うことができる。	
プロフェッショナリズム 保健・医療専門職者として生命を尊ぶ倫理観と責務・行動規範を身に付け、人々の健康と社会の発展に向けて省察的・自律的に行動することができる。		理学療法士として生命を尊ぶ倫理観と責務・行動規範を身に付け、人々の健康と社会の発展に向けて省察的・自律的に行動することができる。		
授業で学べる「テーマ」	健康長寿			
全学横断特別教育プログラム				
授業概要	総合病院、リハビリテーション施設、小児関連施設にて、実習責任者の指導を得ながら6週間の臨床実習を行う。本授業は、3年次後期の「臨床基礎実習」の発展科目に位置付けられる。また、4年次前期の「臨床実習」の前提科目である。この授業は臨床経験豊富な各施設の指導者が学生の実習を担当し実施する。			
授業計画	日程は下記の通りである。 2026年3月23日 オリエンテーション（9:00～オンライン） 2026年4月 6日～5月15日 臨床実習 2026年5月18日 全体報告会、授業アンケートの実施 2026年5月18日～5月22日 グループ報告会 2026年9月11日 Post OSCE（13:00～）			
授業の進め方	実習は信州大学医学部附属病院リハビリテーション部および複数の学外施設で行われ、1施設あたり1～2名の学生が配置される。 施設の理学療法士の指導の下に、対象者の評価や治療を行う。 実習ではポートフォリオを作成する。 6週間の実習終了後、翌週月～金曜日に全体報告会と、小グループに分かれての臨床実習で学んだことの発表会を行う。			
テキスト、教材、参考書	これまで使用した教科書や配布された資料 参考書 鶴見隆正 編:臨床実習とケーススタディ(標準理学療法学・専門分野、医学書院)			
成績評価の方法	チェックリスト、ルーブリック、ポートフォリオ、グループ報告会発表資料、Post OSCEを総括的に評価します。 総括的評価の配分は、チェックリスト20%、ルーブリック20%、ポートフォリオ20%、報告資料・報告会内容20%、Post OSCE20%とし、総得点の60%以上を合格とします。 なお、Post OSCEはすべての実習が終わったあとに臨床実習で修得したことの確認のために実施します。Post OSCEの日程は9月11日を予定しています。			
成績評価の基準	評価は、チェックリスト、ルーブリック、ポートフォリオ、グループ報告会発表資料、Post OSCEの内容に基づいて下記の基準で行います。 秀：課題に対する具体的な対応を十分に行うことができる。 優：課題に対する具体的な対応を概ね行うことができる。 良：課題に対する具体的な対応を基本的なレベルで行うことができる。			

成績評価の基準	可：課題に対する具体的な対応を最低限のレベルで行うことができる。
事前事後学習の内容	【事前学習について】 実習前、事前に臨床実習についてのオリエンテーションを行います。 【事後学習について】 チェックリスト、ルーブリック、ポートフォリオの内容に関して質問を行いますから、実習内容を整理し、要点を「自分の言葉」で説明できるようにして全体報告会・グループ報告会に臨んでください。
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	臨床実習では解剖学、生理学などの基礎医学から整形外科学などの臨床医学、理学療法の専門科目（評価および治療）の知識と技術が必要になり、特に実際に行えることが要求されます。 さらに、臨床現場では患者、病院職員など多くの人とのコミュニケーションが必要になる総合的な科目です。実習前に3年間で学んだ知識や技術を十分復習しておくことが大切です。 実習も臨床基礎実習に続き2回目となります。前回の失敗を糧に成長した自分を積極的に示しましょう。健康には注意してください。 質問への対応：小宅 一彰 k_oyake@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：随時（要事前連絡） 保健学科南校舎4階 小宅研究室